



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月9日

上場会社名 森下仁丹株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4524 URL <https://www.jintan.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森下 雄司  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 吉田 秀章 TEL 06-6761-1131  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,361	20.3	549	578.2	587	455.2	441	226.9
2022年3月期第3四半期	6,950	△2.8	81	△68.2	105	△61.2	135	△34.2

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 757百万円 (485.3%) 2022年3月期第3四半期 129百万円 (△69.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	108.23	—
2022年3月期第3四半期	33.13	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	15,378	72.0	11,066	72.0		
2022年3月期	14,479	72.2	10,455	72.2		

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 11,066百万円 2022年3月期 10,455百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	37.50	37.50
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	37.50	37.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	4.6	280	△6.5	320	△6.1	236	△16.8	57.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	4,150,000株	2022年3月期	4,150,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	67,663株	2022年3月期	71,263株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	4,080,779株	2022年3月期3Q	4,077,107株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済の景気は、緩やかに持ち直しております。個人消費は、外食・宿泊・娯楽などの対面型サービスを中心に回復しております。消費者物価上昇率（生鮮食品を除く総合）は、エネルギー価格の高止まりが続く中、食料（生鮮食品を除く）の伸びが高まったことに加え、携帯電話通信料の引き下げの影響が縮小したなどから、2022年11月には前年比3.7%と約40年ぶりの高い伸びとなりました。政府は2022年7月の月例経済報告で、景気の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」から「緩やかに持ち直している」へ上方修正しております。

当社グループの属する業界も、異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合激化は続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びウクライナ情勢による事業への影響については、予断を許さない状況であるため、今後も注視してまいります。

このような経済状況のもとで、当社グループは、引き続き積極的に事業を展開しております。当第3四半期連結累計期間においては、かねてより参入していたジェネリック医薬品の分野で、2022年2月に日本国内における製造販売承認を取得した高脂血症用剤（一般名：オメガー3脂肪酸エチル）が2022年6月に薬価収載され販売を開始いたしました。

また、当社グループの健康理念のもと、長年蓄積してきた原料調達ノウハウを駆使し、開発した当社独自の機能性素材であるローズヒップエキスや、銀粒仁丹に用いたコーティング技術を発展・応用させたシームレスカプセル製造技術を駆使したフレーバークプセルの販売が堅調に推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高8,361百万円（前年同四半期比20.3%増）、営業利益549百万円（前年同四半期比578.2%増）、経常利益587百万円（前年同四半期比455.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益441百万円（前年同四半期比226.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ① ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては前述のとおり、高脂血症用剤（一般名：オメガー3脂肪酸エチル）の販売が開始し、ジェネリック医薬品の安定供給を目指しています。また、「ビフィーナ®」の販売が堅調に推移し、それに加えて当社独自の機能性素材であるローズヒップエキスでは、採用されたアイテムが増えたこともあり、売上高は、6,313百万円（前年同四半期比17.9%増）となりました。

損益面では、売上高が堅調に推移するなか、効率的なプロモーション活動等に努めたこともあり、セグメント利益は、144百万円（前年同四半期比10.6%増）となりました。

#### ② カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、フレーバークプセルの販売が前年同四半期と比べ増収となりました。

また、産業用途でのカプセル開発にも長年取り組んできた結果として、外部との共同研究により、当社独自のシームレスカプセル技術を用いた化粧品カプセルの開発に成功しました。

今後も当社独自のシームレスカプセル技術を日本のみならず国外においても展開していくことにより、社会課題解決への取り組みをグローバルニーズへと広げることができると考えています。

この結果、売上高は、2,045百万円（前年同四半期比28.5%増）となりました。

損益面では、効率的な生産稼働と合理的な研究開発投資に努めたこともあり、セグメント利益は、402百万円（前年同四半期はセグメント損失51百万円）となりました。

#### ③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、2百万円（前年同四半期比36.2%増）、セグメント利益は、2百万円（前年同四半期比86.4%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は6,753百万円となり、前連結会計年度末に比べ495百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が258百万円、原材料及び貯蔵品が121百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は8,625百万円となり、前連結会計年度末に比べ404百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券の時価評価により投資有価証券が467百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は、15,378百万円となり、前連結会計年度末に比べ899百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は2,448百万円となり、前連結会計年度末に比べ317百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が260百万円増加したことによるものであります。固定負債は1,863百万円となり、前連結会計年度末に比べ29百万円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が175百万円増加しましたが、約定返済により長期借入金が187百万円減少したことなどによるものであります。この結果、負債合計は、4,312百万円となり、前連結会計年度末に比べ287百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は11,066百万円となり、前連結会計年度末に比べ611百万円増加いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が315百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は72.0%（前連結会計年度末は72.2%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びウクライナ情勢による事業への影響が不透明であり、現時点では2022年5月11日の「2022年3月期 決算短信」で公表した通期の連結業績予想を据え置くことといたしますが、今後の業績動向を踏まえ、業績予想を見直す必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,138	2,118
受取手形及び売掛金	2,040	2,298
商品及び製品	645	704
仕掛品	701	700
原材料及び貯蔵品	513	634
その他	231	308
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	6,258	6,753
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,420	1,331
機械装置及び運搬具（純額）	899	789
土地	1,891	1,891
その他（純額）	262	485
有形固定資産合計	4,474	4,498
無形固定資産	458	372
投資その他の資産		
投資有価証券	3,224	3,692
その他	64	62
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	3,288	3,754
固定資産合計	8,221	8,625
資産合計	14,479	15,378

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	983	1,243
1年内返済予定の長期借入金	280	250
未払費用	394	392
未払法人税等	72	90
賞与引当金	188	93
その他	211	378
流動負債合計	2,130	2,448
固定負債		
長期借入金	469	281
繰延税金負債	758	934
退職給付に係る負債	644	627
その他	20	20
固定負債合計	1,893	1,863
負債合計	4,024	4,312
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,537	3,537
資本剰余金	967	968
利益剰余金	4,833	5,122
自己株式	△120	△114
株主資本合計	9,218	9,513
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,240	1,555
退職給付に係る調整累計額	△3	△2
その他の包括利益累計額合計	1,237	1,553
純資産合計	10,455	11,066
負債純資産合計	14,479	15,378

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	6,950	8,361
売上原価	3,450	4,405
売上総利益	3,500	3,956
販売費及び一般管理費	3,419	3,406
営業利益	81	549
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	26	32
その他	3	7
営業外収益合計	31	39
営業外費用		
支払利息	6	1
その他	0	0
営業外費用合計	6	2
経常利益	105	587
特別利益		
固定資産売却益	44	—
特別利益合計	44	—
税金等調整前四半期純利益	150	587
法人税、住民税及び事業税	5	113
法人税等調整額	9	32
法人税等合計	15	145
四半期純利益	135	441
親会社株主に帰属する四半期純利益	135	441



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	135	441
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	315
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	△5	315
四半期包括利益	129	757
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	129	757

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,356	1,591	6,947	2	6,950	—	6,950
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	5,356	1,591	6,947	2	6,950	—	6,950
セグメント利益 又は損失(△)	130	△51	79	1	81	—	81

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,313	2,045	8,358	2	8,361	—	8,361
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	6,313	2,045	8,358	2	8,361	—	8,361
セグメント利益	144	402	546	2	549	—	549

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。